

④新左衛門罷免嘆願 明治2巳年

p 1 0048

三精分清書 巳二月

甲斐帶刀知行所武都市――村方

与頭新左衛門義当年番被申付一同当惑仕奉申上候

右新左衛門義は

文久式戌年九月中私欲押領非義不法之働多分

有之數ヶ条ヲ以奉嘆願候処格別之御憐憫ヲ以

早速退役被 仰付一同安心難有奉存候処

新左衛門義 御地頭所向如何取繕候哉

慶応元丑年極月中組頭役被申付候段村

役場より被申渡一同驚入其場にて先年之義申立

p 2 0049

一同不承知之向村役人ヲ以御地頭所江届け置

慶応式寅年四月中出府願出候処

御地頭所大御繫多之折柄故帰村仕農家追々

繫多ニ差向ひ候間田方植付漸々方付候間其俣

差置候ハ、(ては)一同難渋ニ相成候ニ付別紙ヶ條書

持参御賢察相願度

同年六月名々願出候処村役人添簡無之候ては

難取上ヶ旨被申聞候ニ付別紙嘆願書式通村役人

添翰ヲ以再三相願候得共彼は申宥御取用

不相成砌大御隠居様被遊御逝去引続

上州岩鼻御出張ニ相成り無抛帰村致し居候

処新左衛門義至極竊ニ致し居候ニ付其俣相成

p 3 0051

居候處

慶応三卯年十一月中組頭敬助并**数**右衛門

百姓代等御呼出早米取立被 仰付候ニ付

百姓代より先年嘆願之上退役相成候義申立

候得共御取用無之帰村之上一同江可申聞旨被

仰付帰村早速一同江申聞候處大混雜相成

乍併急場早米御取立之義は

御上様御差支相成候ては一同奉恐入同人

相加り候ても早速御上納仕跡々之儀は是迄之

通り新左衛門義は居置御用村用之義は外

役人にて相勤候様相願度別紙之通奉嘆願

候處折能村方朝光寺出府有之同寺江相

繼り右之訳ヶ柄御伺被下候処 御上様格別之

p 4 0052

御思召

被為在来正月年始出府之節迄ニ退役

為相願埒明候様致し可遣旨之内意同寺より

惣代之者共江申聞候ニ付任其意願人共

引取一同安心罷り在候処又々内実取繕候事と

相見へ同人義不得止事自宅にて皆済勘

定等仕先年より我意増長可仕と一同混雜仕

無余義出府御憐憫奉願度

慶応四辰年二月十二日惣代之者出府歎

願候處来ル三月初旬村役人之内宗門帳持参

齊藤十右衛門様より

出府之節孰共埒明候様致し可遣。旨願人共江被申聞歸村之上小前一同江申通し一同相悦御沙汰相待候處其義無之地頭所役人中江

d 5 0053

厚く相継り取巧候事と相見へ一村難渋之義是迄度々願立候ても一切不取用方便ヲ以申宥ケ條歎願之通非義不正之押領等新左衛門義一切不取調当年番申付置萬一村方之者故障等致し候ハ、糺明可申付おり入手鎖宿預等にて諸雜費相懸ケ難渋致し候ハ、承伏可致旨之

内実 又相聞へ

\*へんぱ片寄つて不公平なこと。

取計方。相見へ。年来非義偏頗之取計一同 \*道理に外れる。

心外至極ニ奉存候得共地頭所と知行所之義

押て相願候ハ、地頭所之御非分ニも相当り可申哉 \*理に合わない事。

奉恐入且何様之御咎もと差控居候得共

一村と不正之新左衛門耆人之義ニ御座候間

当御役所之御威光ヲ以不法之新左衛門

d 9 0054

是迄之通り

当年番相退キ外役人にて相勤村方混雑

無之一村平和ニ相治り小前一同安心

永続仕候様被成下置度偏ニ奉願上候以上

後十一日□□明ノ日

明治貳年二月

市ヶ尾村

(了)

令和3年12月釈文ス青葉区古文書之会わりいし